

第 24 回解剖技術研究・研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班 中谷 宣弘

1. はじめに（目的等）

本会は日本解剖学会学術総会に併行して行われる解剖技術研究会であり、解剖学関係、とりわけ献体を取り扱う技術職員の研修を目的とし、形態学分野における技術の伝承と発展を基本理念と考え、日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等を、発表を通して意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることとしている。

2. 期間・場所

期間：2023 年 3 月 18 日（土）

場所：宮城県仙台市 東北大学川内キャンパス

3. 参加者等

各大学の解剖学技術系職員 約 50 名

4. 研修内容

今回の研修会では、教育講演一題と感染症をテーマとした演題、討論会の構成であった。私は研究会の会計幹事を担当しており、開始二時間前に集合し幹事会を行い、進行の打ち合わせもした。会場準備、受付業務、終了後の会場後片付けも行った。

5. まとめと感想

献体処置業務は観血的な作業であるため、主に血液を介した感染症のリスクが高く、その対応策を慎重に講じる必要がある。本学でも予防着の装着や消毒、予防ワクチンの接種などを行っているが、専門の医師によるウイルス・菌種ごとの特徴や傾向、危険度などの丁寧な説明があり、知らなかったことも多く非常に勉強になった。のちの討論会では本学と異なる対応をしている大学からの報告もあり、興味があった事には質問をするなどして情報をまとめ、持ち帰った。久しぶりにオンサイトでの研修会に参加したが、オンラインよりも各々が自由に発言しやすく、特に討論会は顔を突き合わせての開催が良いと改めて思った。